

2 算数科の指導

算数科の指導は、学年別指導を行っている学校が多いようです。算数科で学年別指導をする際には、「わたり」や「ずらし」の在り方が重要になってきます。
ここでは、前時までの「復習」（4年）と本時の「課題把握」（3年）から始まる学習指導過程を紹介します。



例：第3・4学年算数科学習指導案

《本時の目標》

第3学年 単元名「あまりのあるわり算」

○ 余りのあるわり算の計算ができる。また、余りのあるわり算の適応題が解ける。

第4学年 単元名「面積」

○ 面積の単位 km^2 を知り、 km^2 と m^2 の単位の関係を理解するとともに、長方形の面積を km^2 として求めることができる。

《学習指導過程》

指導上の留意点及び評価の観点（☆評価）	学習内容及び活動	形態	形態	学習内容及び活動	指導上の留意点及び評価の観点（☆評価）
	1 学習のめあてと問題を確認する。 学習のめあて あまりのあるわり算名人になろう 問題を確認する。	直	間	1 前時に学習したことを振り返る。 ・算数読み声（音読）	○ 算数読み声で前時までの学習を振り返る。 ○ ガイド役に学習内容を指示しておく。
別紙に「学習のめあて」や「学習問題」を用意することで指導時間を充実させることができます。	○ 練習問題プリントを用意し、時間を決めて問題に取り組ませる。	間	直	2 学習のめあてを入れます。 南北4km、東西2kmの長方形の形をした土地の面積を求めましょう ・題意の把握と理解をする。 学習のめあて もっと大きな面積を求めよう	間接指導時に充実した学習を進めるために「ガイド学習」を取り入れよう。 図を用意し、問題に悩む区域を囲んで量感をもたせる。
個別学力に応じた数種類のプリントを準備し、間接指導を充実させます。	2 練習問題を解く。 ・目標時間をきめる。 ・余りのあるわり算の計算問題や文章問題を解く。 タイマーやストップウォッチを使って目標時間を設定し、間接指導時の集中力を高めます。	間	直	3 立式して、答えを出す。	○ 立式して、面積を求めた後、どのように考えたかを説明できるように自分の考えをノートに書かせる。
○ 余りのあるわり算の計算の仕方を確認しながら解答し、間違った児童には、何が原因で間違ったのかを考えさせる。	3 答えを確認する。 ・あまりのあるわり算の計算問題	直	間	4 どのように面積を求めたか話し合う。 ・自力解決を発表する。 ・みんなの意見を参考にしよう	○ ガイド役がスムーズに進行できるように打ち合わせをする。
○ ガイド役がスムーズに進行できるように打ち合わせをする。	4 練習問題2③を解く。 ・ガイド役を中心に答え合わせをする	間	直	5 面積の単位を知ろう。 ・大きい面積は、1辺が1kmの正方形の面積（ 1km^2 ）として表すことを知る。	○ ガイド役の児童には、事前に学習の進め方や進め方、目安の時間を提示します。
○ 「ホワイトボード」を活用します。 たしかめ算の仕方を確認してから問題を解かせる。 ○ 本時に解いた練習問題を個別に確認し指導する。 ☆ 練習問題が解ける。	5 答えを確認する。 あまりのあるわり算のたしかめ算をする。 6 練習問題4⑤を解く。	直	間	6 練習問題を解く。 南北3km、東西12kmの長方形の形をした土地の面積を求めましょう ・立式して、答えを出す。 7 適応問題を解く。	○ km^2 を単位として問題を解き、定着を図る。 ○ 学力に応じた問題を準備し、ガイド役が中心になって解答できるよう事前に打ち合わせを行う。
○ 個別に問題を与え、余りのあるわり算の定着を図る。	7 適応問題を解く。 ・個別に答え合わせをする。 本時学習のまとめは直接指導で行います。	間	直	8 本時の学習のまとめ。 ・1辺が1kmの正方形の面積 = 1km^2	○ 本時の学習内容を確認し、まとめ。
○ 自己評価カードに記入、本時の学習への取組を振り返らせる。 ○ 算数読み声を行うことで、基礎・基本の定着を図る。	8 振り返りカードを記入する。 ・算数読み声（音読）	直	間	9 本時の学習を振り返る。 ・振り返りカードを記入する。 ・算数読み声（音読）	○ 自己評価カードに記入させ、本時の学習への取組を振り返らせる。 ○ 算数読み声を行うことで、基礎・基本の定着を図る。